

## ① 益田市木材利用連絡会議の開催

管内の各市町では、「公共建築物における木材の利用の促進に関する法律」に基づき「木材利用行動計画」を策定し、公共部門における木材利用の推進を図っています。

3月17日(火)、益田市において計画に基づく庁内会議が開催されました。当日は、益田市農林水産課のほか、公共建築物の所管部署である建設部・教育委員会・福祉環境部の職員が出席し、公共建築物木造化・木質化の取り組み目標に対する実績報告や、次年度以降の発注計画に関する情報交換が行われました。

当事務所からは来年度4月に県及び管内市町担当者を集めて開催する「公共建築物における木材利用調整会議」に向けて、地域材準備のために不可欠な中長期計画の情報提供を依頼したほか、地域材利用事例を紹介し、公共建築物へのさらなる地域材利用を呼びかけました。

本会議を通して、公共建築物への地域材利用に向けた機運の醸成や、課題の共有につながるよう、引き続き働きかけていきます。



会議の様子



## ② ツキノワグマ錯誤捕獲発生 ～ツキノワグマに出会わないために～

4月7日(火)に、今年度益田管内初となるツキノワグマの錯誤捕獲が発生しました。錯誤捕獲とは、イノシシなどを捕獲するために設置したわなにクマが誤ってかかってしまうことです。

春は山菜採りなどで山に出かけるが増える季節です。しかし、この時期はクマが冬眠から目覚め、食べ物を求め活発に動き回るため、クマに出会う確率も高くなります。特に、春先には子連れのクマが多く出没することも予想されます。母グマは子グマを守るために神経質になっており、出会ってしまうと人身事故に繋がる危険性もあります。

クマによる人身事故を防ぐには、「もし出会ったらどうするか」を考える前に、「どうしたら出会わないか」を考えることが重要です。例えば、複数人で行動する、常にラジオやクマ鈴で音を出すなど、クマが人に気づきやすいような状況を作ることが大切です。しかし、山菜採りなどに熱中するあまり周辺への注意力が散漫になり、茂みに潜んでいるクマに自ら近づいてしまい、クマと接触する事態も考えられます。クマ鈴などを過信しすぎずに周囲に十分気を配り、人がクマに気づきやすいように行動することを心がけ、クマと出会わないよう注意しましょう。



錯誤捕獲されたツキノワグマ

## ①益田管内苗木生産現場の生育状況を確認

令和2年6月24日に益田市横田町で、苗木の生育状況の確認を目的として、管内苗木生産者の生産現場を訪問し、生育状況を確認しました。今回は、播種後2ヶ月と2年生裸苗ということで乾燥状態や肥料の量等を確認し、今後の育て方について意見交換を行いました。

播種されたのは、ヒノキとスギであり、ヒノキは金城播種園、スギは瑞穂播種園から採取された種でした。前週の大雨により畑が冠水してしまったということもあり、芽の出方が弱いものが多少目立ちました。昨年度と同じ季節と比べて7割ほどの背丈となっていました。このことについて生産者の方からは大雨への対策として水路の整備や畝の高さを調整しているというお話があり、工夫されている点をお伺いしました。

昨今の気候変動に対する完全な対策はなかなかありませんが、畑に入れる土を水はけのよい物にしたり、水流を避ける遮蔽物を設置する等の提案をし、少しでも被害が減る方向になればと考えております。

また、2年生苗については、ヒノキと実生スギで、ヒノキが緑化センターから、実生スギが金城播種園の種から成長したものでした。こちらは生育が順調で多少雨の影響を受けているもののほぼ計画通りの状態でした。ある程度大きくなったものは、多湿に耐えられることもあり、被害が少なかったと思われます。

引き続き、管内の苗木生産に目を配り、得苗率の向上を計っていきたいと思っています。



苗木生産現場の様子



苗木の様子

## ① 公社造林地での林業専用道作設に向けた現地踏査を実施

令和2年7月21日(火)に、林業公社職員と原木生産の低コスト化を目的とした、団地の基幹道である『林業専用道』の作設に向けた現地踏査を実施しました。

今回は既設の森林作業道から林業専用道への格上げも考慮し、公社造林地の2団地を踏査し、接続道からの入口が取り付け可能か、大型トラックが走行可能か、縦断の勾配が急でないか、R(曲がり)の角度はきつくないか、地形が岩盤地等でないかなど、図面上では判別できない点について、現地踏査を実施しました。

実際に現地踏査を実施してみると、1団地については、図面の等高線では傾斜が緩く、道が作設できそうな箇所でも、実際の現地は急で取りつけが難しい等の問題点が判明し、もう1団地については、既設の森林作業道の拡幅や改良を実施すれば、作設の見込みがありました。

今後は、実際の実施時期や予算等について、関係者も含め前向きに検討していければと考えています。



専用道入口検討の様子



既設の作業道の様子

## ② 県立益田翔陽高校で林業体験学習を開催しました！

令和2年7月3日(金)に県立益田翔陽高校環境土木コースの3年生17名を対象に林業体験学習を開催しました。農林大学校林業科(飯南町)から2年生の学生と先生を講師先生としてお招きし、グラップル操作、丸太切り、ユニック操作の3つを体験しました。

グラップル操作では丸太を掴んで機械を旋回させて別の場所へ移動する操作を体験しました。初めて体験する作業で最初はレバー操作に苦労されている様子でしたが、数回でコツを掴んでいる様子でした。生徒は丸太を掴むことよりも置く操作が難しいと話しておられました。

丸太切り体験では、最初にノコギリで丸太切りを行った後、農大の学生に指導を受けながらチェーンソーを使いました。丸太は直径20cm以上ありましたが、チェーンソーでは少ない力で切れるので、便利だという声が多く聞かれました。下から切り上げる作業はチェーンソーの刃が見えにくいので切り曲がってしまったと話していた生徒もおられました。

ユニックの操作体験では、丸太をつり上げてトラックの荷台に載せる作業を行いました。レバーの操作加減でクレーンの速度が変わるので難しい作業でしたが、農大の学生の指導を受けて頑張っておられました。

今回の林業体験を通じて、林業に興味をもってもらい将来の仕事に生かして頂きたいです。講師として遠方からお越し頂きました農林大学校林業科の先生、学生の方々にお礼申し上げます。



グラップル操作体験の様子



チェーンソー体験の様



ユニック操作体験の様

**①県立益田翔陽高校で森林と木の授業を開催しました！**

令和2年7月27日(月)に県立益田翔陽高校環境土木コースの3年生8名を対象に森林と木の授業を開催しました。このうち4名の生徒は卒業課題研究として木造の農機具小屋の建設をする予定です。

森林の授業では、講師先生から生徒へ日本や島根県の森林率について次々と問題が出されました。どの生徒も正解に近い数字を答えており森林について普段から勉強しておられる印象でした。

木の授業では広葉樹の樹種のサンプル、柱材と住宅模型を使って講義を行いました。木にはいろいろな種類があり、日本で最も堅い樫の木と、比較的柔らかいスギのサンプルを手を持って違いを確認していました。今回の講義を受講した生徒8名は建築関係の分野を卒業課題のテーマとしていることもあり、木造の住宅模型に一番関心をもっておられました。

今後は令和2年末までのところで生徒が高津川流域で生産・製材された木材を使って小屋作りに取り組みます。完成を楽しみにしています。



森林の授業の様子



木の授業の様子

**①循環型林業拠点団地の設定に向けた地域協議会を開催しました**

令和2年9月18日益田合庁5階第4会議室にて、『循環型林業拠点団地の設定に向けた地域協議会』を開催しました。循環型林業拠点団地とは、資源の充実したエリアにおいて、収益性の高い林業経営ができるように路網等を含め設定された団地です。

今回の協議会では、令和2年度設定予定の候補団地2団地と令和3年度の団地設定に向け、調査計画S、県土整備事務所、益田管内市町、林業公社、林業事業体等の関係者を集め、意見聴取を実施しました。意見聴取では、林業事業体からの候補地提案や先に道をつけてほしい箇所など議論が交わされました。

今回の協議会の結果、令和2年度設定予定の2団地については、予定通り団地設定をすることになり、また資源が充実した新たな団地候補地も見つけることができました。

今後は団地ごとにグループワーク等を実施して、地域協議会を運営していく予定です。



益田市の協議の様子



津和野町の協議の様子

**①益田市匹見下地域において、有害鳥獣被害対策勉強会が開催されました。**

令和2年9月26日(土)に、匹見下いいの里づくり協議会(生活環境委員会)が主催する有害鳥獣被害対策勉強会が開催され、西部農林振興センター益田事務所の鳥獣担当が講師を務めました。当日は、地域住民や市担当者など20名程の方に参加頂きました。勉強会では、本地域で被害が目立つニホンザルに焦点を絞り、ニホンザルの基本的な生態や対策技術、他地域の成功事例について紹介しました。また、屋外に見本となる展示柵を設置し、防護柵の種類や設置する際のポイントなどを説明しました。映像や写真で基本的な対策技術を学んだ後に実物の展示柵を見ることで、より理解しやすいとの声も伺いました。

今回の勉強会を契機に、今後は実際の農地で柵の設置研修などを引き続き行い、地域住民が協力して農作物被害を軽減していけるよう、支援を実施していきます。



勉強会の様子



展示柵

## ①二条地区において、ツキノワグマについての研修会が開催されました。

令和2年11月6日(金)に益田市立桂平小学校において、桂平小学校・二条里づくりの会(くらし部会)が主催する「クマから身を守る方法」研修会が開催され、西部農林振興センター益田事務所の鳥獣担当と鳥獣専門指導員が講師を務めました。当日は、桂平小学校児童や地域住民など30名程の方に参加頂きました。

この研修会では、ツキノワグマの生態や行動特性、ツキノワグマに出会わないために気をつけること、出会ったときの対応方法等を写真や映像を用いて説明しました。また、ツキノワグマの剥製を実際に見たり触れたりしながらの特徴の説明や、剥製を生きているクマに見立てて、実際に出会ったときに自分ならどうするかを児童に考えてもらいました。

参加した児童からは「こんなに歯や爪がするどいことにびっくりした」「クマの足の速さや木登りが上手なことがすごい」「クマは柿や栗が大好きなことが分かった」「クマに出会った時にどうすれば良いか知れて良かった」等の感想がありました。今回の研修会を通して、児童や地域住民の方々に、ツキノワグマに対する理解を深めてもらうことが出来ました。



研修会の様子

## ②益田市匹見上地区において、鳥獣被害対策研修会が開催されました。

令和2年11月21日(土)に匹見上 清流の郷が主催する鳥獣被害対策研修会が開催され、26名の地域住民の方にご参加頂きました。

研修会では、始めに西部農林振興センター益田事務所の鳥獣担当がイノシシやニホンザルの行動特性や被害対策技術について説明し、その後益田市職員から匹見町内の被害情報や最近導入されたサル捕獲檻に関する説明がありました。また、二条里づくりの会から二条地区でのサル被害対策の成功事例についての紹介も行われました。研修の最後には、質疑応答や意見交換が活発に行われました。今回の研修会を契機とし、今後さらに柵の設置研修などを行って技術普及を図り、地域の鳥獣被害を軽減していけるよう、支援を実施していきます。



研修会の様子

## ①津和野高等学校の1年生が林業を体験しました。

令和2年11月10日(火)に津和野高等学校の1年生4名を対象に林業体験学習を開催しました。講師の先生として、津和野林産株式会社の2名の方をお招きし、町内の山林で玉切り体験とグラップル操作体験、伐倒体験を行いました。

玉切り体験では、3m程度に造材した丸太をチェーンソーで輪切りにしました。参加者の中には初めてチェーンソーを使う生徒もおられましたが、回数を重ねるにつれて上達し、スムーズに作業が行えるようになりました。

グラップル操作体験では材を掴んで旋回し、別の場所へ移動する作業を体験しました。グラップルはレバー操作に加えて足下のペダル操作もあるため苦戦する生徒が多いと予想していましたが、講師先生の説明をすぐに理解し自分の手足のように操作していました。

最後はグラップルで垂直に掴んだ木を立木に見立て、受け口と追い口を作って伐倒する作業を体験しました。きれいな受け口を作る作業はとても難しいですが、無事伐倒できると生徒から安堵の声が上がっていました。今回の林業体験で、林業に親しみをもってもらい将来の職業の選択肢の一つとしていただければ企画者として幸いです。



玉切り体験の様子



グラップル操作体験の様子

## ①益田翔陽高等学校の3年生が農機具庫を建てました。

令和2年11月25日(水)から林業教育推進事業を活用し、益田翔陽高等学校生物環境工学科の3年生4名が木造農機具庫の建築に着手しました。

25日の作業では講師先生として、高橋建設株式会社の建築士の方や島根県西部高等技術校の先生にお越し頂き、のこぎりの使い方や釘の打ち方を学び、真剣な表情で作業に打ち込みました。実際に作業をした生徒からは、「高い位置のネジを真っ直ぐ打ち込むのが難しかった」「設計図ではイメージできなかった部分が、柱や梁ができあがることで全体のイメージが分かった」との意見がありました。

今回の取り組みは卒業に向けた課題研究の一環でもあり、今年の夏から勉強会や設計図の作成を開始しました。倉庫に使われる柱や梁などは全て高津川流域産のスギやヒノキを使用しています。農機具庫の規格は高さ2m縦4m横4mのもので、農機具や資材の保管場所として在校生が利用する予定です。

農機具庫は12月2日(水)無事完成し、後日開催された卒業課題発表会で「しまねの木を活用した器具庫の作成」と題し発表を行って頂きました。

今回の取り組みを通じ、県産木材に親しみを持ってもらい、倉庫が在校生に永く利用していただければと思います。



農機具庫建設の様子



完成した農機具庫